

TOPICS 1 話題のGINZA SIXに「鎚起銅器」の殿堂オープン…玉川堂

今年の4月に鳴り物入りで銀座通り(東京都中央区)にオープンしたGINZA SIX。松坂屋百貨店がその威信をかけた「脱百貨店」を掲げるこの施設は、銀座最大の複合商業ビルで、新たなランドマークとして期待がかけられている。

このGINZA SIXの4階(ファッション&ライフスタイルフロア)に新潟県燕市の鎚起銅器の老舗「玉川堂」(ぎょくせんどう)が出店した。同社では、青山に続く都内2店目の店舗で、天井、床、側壁全面がまばゆいばかりに光り輝く銅板製。そのデザイン性ととも、店内に揃えられた巧緻を尽くした製品群は立ち寄りの人々を圧倒していた。



TOPICS 2 高岡銅器(有)モメンタムファクトリー・Oriiが「大谷美術館賞」を受賞

財団法人大谷美術館(東京都北区)では、材料表面的美的評価向上に関する優れた作品および顕著な技術・業績に対し、毎年「大谷美術館賞」を贈り顕彰している。

平成28年度については、本誌180号でもご紹介した(有)モメンタムファクトリー・Orii「高岡銅器の伝統的着色を応用し、圧延板へ新たな発色技法を確立した建築・建材・クラフト商品」ほか1件が選ばれ、去る3月3日、大谷美術館において表彰された。



授賞式



会場に展示された作品

TOPICS 3 ドカベン、里中、岩鬼…銅像で蘇った人気キャラクター

神奈川県明訓高校野球部。熱戦のうちに幕を閉じたあの甲子園の話ではない。1972年から掲載された人気漫画「ドカベン」のチームである。

このドカベンに登場したユニークなキャラクターの面々が新潟市古町通5番町に銅像として蘇った。作者の水島新司氏出身の地に造られたもので、通称「ドカベンロード」に並ぶ計7体。ドカベン、里中、岩鬼、殿馬…。岩鬼のあの打球音「グワラゴワガキーン!」が聞こえてきそうな迫力である。



アンダースローの里中



ドカベンの山田



葉っぱをくわえた岩鬼

編集後記

日本人のものづくりに対するこだわりは留まるところを知りません。

今号は音に関する銅製品の取材がふたつありました。昔から大きな梵鐘も銅鑄物で作られ僅かな成分や寸法の違いで音に差が生まれました。現代はそれをコン

ロール出来るようになりました。銅がもつ特性を最大限に利用しながら今までにないものを作ることで更に新しい銅の需要を喚起出来ることは素晴らしいことです。

編集デスク 森川 純一(日本銅センター)

情報発信委員会

〈委員長〉磯部剛(古河電気工業(株))
 〈委員〉鉱山/村木剛(三菱マテリアル(株))、
 菱田謙一郎(パンパシフィック・カッパー(株))、
 永田禎彦(日本銅業協会)
 伸銅/米津伸保((株)神戸製鋼所)、
 鎌田俊一((一社)日本伸銅協会)
 電線/吉村志登美((株)フジクラ)、
 大木啓一((一社)日本電線工業会)、
 ((一社)日本銅センター)和田正彦、幸洋二、仙田繁